



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和元年度夏休み号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
kochuo-e.konosu.ed.jp

児童数377人



「共有体験」のすすめ

教頭 若林 朋子

69日間の1学期の授業が、本日終わりました。今年は、梅雨寒で例年よりもプールに入れる日が少ない7月となりました。子供たちは「今日はプールに入れるかな。」と期待を込めて空模様をうかがっていました。そんな子供たちを見て「夏休みのプール開設日は晴れますように」と願うばかりです。

さて、明日から子供たちがとても楽しみにしている夏休みが始まります。学習面、生活面での課題もありますが、夏休みだからこそ経験できること、挑戦できることにも取り組んでほしいと思います。また、夏休みは家族で過ごす時間が確保しやすいかと思いますので、その時間も大切にしてほしいと思います。昨年度の教職員全員研修会での教育講演会での講演内容に、夏休みの過ごし方の参考になるお話がありましたので紹介します。（裏面に教育講演会の資料も掲載しました。）

教育講演会 「子どもの自尊感情をどう理解し育むか～共有体験の大切さ～」

講師 日本ウェルネススポーツ大学 教授 日本いのちの教育学会 会長 近藤 卓 氏

自尊感情

自分を大切に
思う気持ち

- 「社会的自尊感情」（優越感、人より優れている、他者との比較等、すごい自分）
→「ほめられる」「認められる」ことで大きくなる心
- 「基本的自尊感情」（これで良い、このままでいい、自分は自分、他者との比較でなく、絶対的、無条件、根源的で永続性のある感情、ありのままの自分）
→共有体験で大きくなる心

このように、自尊感情には「社会的自尊感情」と「基本的自尊感情」があり、『社会的自尊感情はやる気を生み出す感情』で、子供と向き合う（対面する）ことで育っていくようです。そして、『基本的自尊感情はどんなときも支える感情』であり、子供に寄り添うこと（隣で同じ方向を見つめる）で育てることができるようです。この「基本的自尊感情」が育っていると、子供たちは安定した状態が保てるようです。

では、その「基本的自尊感情」を育てるためには、どうしたらよいのでしょうか。共有体験を重ねていくことが大切だそうです。共有体験とは、体験を共有し、その体験による感情を共有することだそうです。（同じテレビを見て笑う等でもいいそうです。）この共有体験を、少しずつ積み重ねることで厚みが増し、「基本的自尊感情」が大きくなっていくようです。また、子供に寄り添うことも大切とのことです。寄り添う方法について紹介された内容を記します。

- 1 子どもが夢中になっているものに、一緒に取り組んで夢中になる。（例 アニメ、スポーツ等）
- 2 親が好きなことに、子供を引き込む。（例 釣り、自転車、絵画、音楽、読書等）
- 3 親子で、新しい何かを発見する。（例 キャンプ、ハイキング、映画、演劇、音楽等）

40日間の夏休みの過ごし方の参考にさせていただけたらと思います。私も普段は、我が子と共有体験ができていないか不安な状況です。夏休みは息子たちと映画（隣で同じものを観る）にでも行こうかと思っています。

377名の児童みんなが、事故なく、けがなく、体調をくずすことなく、笑顔で8月29日の2学期を迎えられますことを心から願っています。そして学校においても、日々の授業や行事等を通して、子供たちが共有体験を積み重ねていけるよう支援していきたいと思っています。